

第15回目の研修テーマは、「課題分析をやってみよう」です。

課題分析とは、目標行動の達成に必要な行動を一つ一つ段階的に分け、スモールステップの形にする作業です。スモールステップにすることで一つ一つの行動の難易度が下がり実行しやすい形になります。それにより小さな成功体験を積み重ねながら大きな目標行動に無理なく前向きに近づくことができるのです。

例えば、「宿題をする」という行動をスモールステップに分けると、

- 1、遊びをやめる
- 2、遊び道具を片付ける
- 3、子供部屋に行く
- 4、ランドセルから宿題を出す
- 5、ランドセルから筆箱を出す
- 6、漢字の宿題内容を確認する
- 7、漢字のドリルを行う
- 8、分からない時は聞く
- 9、親に丸付けをしてもらう
- 10、漢字ドリルを端に置く
- 11、算数の宿題内容を確認する
- 12、計算ドリルを行う
- 13、分からない時は聞く
- 14、親に丸付けをもらう
- 15、計算ドリルを端に置く
- 16、音読の内容を確認する
- 17、聞いてもらう為に親を呼ぶ
- 18、音読を行う
- 19、親にサインをもらう
- 20、宿題をランドセルに入れる
- 21、ランドセルを片付ける

となります。 皆さんはどう感じるでしょうか？

- 並べると行動が多く感じる     文字にするとイメージしにくい  
 とても面倒くさい感じがする     回りくどくて考えるのに時間がかかる

と感じる方が少なくないはずです。なぜなら、スモールステップにするまでもなく、頭の中で瞬時に見通しを立てて、ほぼ無意識に組み立てた段取り通りに取り組めるからです。

しかし、「宿題しなさい！」と言われただけでは、何から始めて良いか見通しが持てない子はのでしょうか？上記のような21項目をスムーズに取り組めるのでしょうか？そこで、今回の研修では、支援者側が課題分析やスモールステップを意識した視点を持つことが何よりも重要だということをグループワークを通してお伝えしました。

子どものせいにして何も前に進みません。支援者側の常識に当てはめず、子どもの視点に合わせた支援を行うことが必要なのです。

